



「本業第一。無理なく繋がる 『オール静岡』の輪」

静岡県鍍金工業組合 青年部会会長 村松 竜太郎
(株式会社村松製作所)

全国の皆様、こんにちは。静岡県鍍金工業組合にて青年部会長を務めさせていただいております、株式会社村松製作所の村松竜太郎と申します。私は1977年生まれの48歳、静岡県浜松市で今年創業80周年を迎えるめっき会社の3代目を務めております。

私が拠点を置く浜松地区には、古くから青年部活動があり、同世代の若手経営者同士が地域の繋がりを築いてきました。一方で、静岡県は東西に150km以上と非常に広く、県内でも文化や商圈が異なります。そのため、これまで中部や東部、岳南エリアを含めた県全域の次世代が顔を合わせる公式な場はなかなかありませんでした。

そんな中、令和8年に入り、県全域の若手が集う「静岡県青年部会」の交流会が実現しました。私も会長という役目を仰せつかりましたが、この会を立ち上げるにあたり、強く心に決めていることがあります。それは、「決して皆の負担になるような組織にはしない」ということです。

交流会の中でも、仲間から「活動が負担になって本業の足を引っ張ってはいけない。あくまで『本業ありき』だ」という率直な意見が出ました。私も全く同感です。私たちは日々、自社の経営や現場の課題に追われています。形式張った行事や事務作業を増やして、そこでエネルギーを消耗してしまっては本末転倒です。

私が考える青年部の最大の価値は、「本当に困った時に『ちょっと教えて』と気兼ねなく電話できる関係性」を作ることです。普段はそれぞれの地区でしっかりと地盤を固め、自社の仕事に集中する。そして年に数回だけ、無理のない範囲で「オール静岡」で集まり、ざっくばらんに情報交換をする。同業者で仕事を奪い合ってバチバチするのではなく、互いに補完し合えるような、そんな「ゆるやかで心地よい繋がり」が理想だと考えています。

また、会議ではAIやIoTといった最新技術の話題も出ましたが、激変する時代の中でこれからの企業をつくっていくのは、間違いなく若い世代の柔軟な発想です。私も40代後半になりますが、50代が近づいてきた世代の役割は、重い組合活動を若手に押し付けて彼らの足を引っ張ることではありません。彼らが必要な時に頼れるネットワークを用意し、やりたいことをそっと後押ししてあげることだと思っています。

歴史ある浜松の絆に加え、新たに生まれた「オール静岡」の繋がり。気負うことなく、本業第一のスタンスを崩さずに、仲間たちと等身大のペースで歩んでいきたいと思っています。全国の諸先輩方におかれましても、私たちのこの歩みを温かく見守っていただき、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。